

令和3年9月5日

登録番号 16-009

氏名 下山 陽介

登録番号 14-012

氏名 乗友 美智子

大阪市地域公共人材活動報告書

記

1 派遣日時 令和3年9月1日（水） 19:00～21:00
(第5回派遣)

2 派遣場所 各所よりリモート（zoom）にて実施（Worker & Cancer）

3 参加人員 4人 内訳：依頼団体1名、公共人材2名、大阪市1名

4 活動内容

【派遣内容・ミッション】

新しい拠点で事業を展開していきたい。展開の仕方として、地域活動協議会などの地域活動と協働していきたい。新しい拠点で、自分たちの活動へのニーズがあるかどうかの市場確認などを、会議にて明確にしていきたい。

また、自分たちの組織ができること・できないことを明確にして文章化し、地域コミュニティに貢献できる団体としてのミッションも検討する会議の支援について、ファシリテーションおよび専門的見地からの助言を行う。

【支援概要】

団体の方が計画中である手帳事業が、今後どのような選択肢があるかを具体化するところに焦点をあてアドバイスをした。

【支援内容】

前回まとめ

1) 団体の方の方向性

前々回にコンセプト、ターゲットの変更（対象者をガン患者に限定せず、広く闘病中、治療中の方向へ向けたもの）したが、前回は、幅広いターゲットの共通点があるのでないかという点を考えた。

2) 概要

①『ターゲット』

- ・どのターゲット候補にも共通する特徴として、「気持ちを言葉にするのが苦手」「相談するのが苦手で抱え込みがち」などが挙げられる。
- ・下記コンセプトのようなことをこれまで行って来なかつた人、きっかけやサポートがなければ着手しない人がターゲットとなる。

②『コンセプト』

- ・「Well Being」の考え方を参考とし、身体面、精神面、社会面（仕事、経済）のそれぞれを改善し、バランスが整えられるようサポートする手帳となる。
- ・可視化、つまり自身の健康状態や精神状態、気持ちを文章化することに焦点を当て、「何を書くべきかが分かる」手帳作りを目指す。
- ・文章化を通してどのように気付きを得ていくのかについては手帳内では具体的には触れ

ない。

③『説明書』

- ・手帳使用方法（書き込み方法）が具体的に分かることのないわゆる「説明書」が必要となる。

支援内容

1) 医療関係の専門家からの意見の共有

*薬剤師からのアドバイスを受けて改良し、看護師さん等にご意見を聞いた。

①薬剤師からの意見

- ・ガンといつても部位も進行度合いも違う
- ・共通項よりも絞って設計しては？
- ・最後を待つだけの人には健康状態を記載していくのは苦しめることになるのでは？
- ・全体のバランスを整えて
- ・巻末で、医者との付き合い方、薬局との付き合い方、健康とは等を書く

②京都の患者会のAさんからのご意見

- ・説明書が必要
 - ・「こういう手帳あつたら良いんじゃない」⇒（需要はあるとの確信を持てた）
- ③淀川区の病院の看護師さんたちからも色々とアドバイスを頂いた。
- ・こういう手帳は自分の体の状態を知れるので必要だと思う
 - ・コロナ禍でも、手帳は自分で書き入れて出来るので、良いと思う。

2) 医療関係者からのアドバイスを受けて思うこと。団体の方の問い合わせ

- ・団体の方がよく考えることは、「よく生きる」
- ・これは知ることが大切
- ・自分の身体のことによく知ること
- ・患者に手渡す方法？
- ・指南書が必要？

3) 手帳と新しい情報についてのアドバイス他

*この手帳は不変なものを、新しい情報はSNS等をつかって更新する。

①手帳を取り口に

②新しい情報の例

- ・団体の方が集めている情報～相談先の提供
- ・患者会の報告
- ・大阪のがん対策会議に相談委員会で出席している会議のこと

4) 無料配布 or 有料配布(資金調達と関係する)、手帳をどこで手に取ってもらうか。

- ・各区や大阪市に置かせてもらう
- ・商業ベースに載せるのは難しい
- ・サンプル版から製品版、いける時点でクラウドファンディング
- ・ダメ元で日本癌学会においてお願いする。
- ・ソーシャルビジネスのビジネスコンペに出すと協力者が得られる？
- ・シュミレーションのためにサンプル作る
- ・手帳の中身、例えば「リフレーミング」を入れる場所はどこが良いか等具体的なことを聞きたい⇒実際のモニタリングで検証する。

5 所感（全5回を通して）

全5回に渡り、団体の方の頭の中を整理する支援を行ってきた。紆余曲折ありながらも、具体的な次の一步が見えるところまでは進める事が出来たと感じる。これから先の決断や判断の基準となる観点、考え方について多くの種をまいてきた。行動力と決断力を持った団体であるため、今後は団体の方がそれらを基に事業を前に進めていかれるものと信じている。

所感（全5回を通して）

5回の派遣が終了し、派遣開始前のヒアリングを振り返ると、その時に言われていたことが形

になり可視化できるようになったと思う。

毎回、方向転換されているように団体の方は感じられることもあったかもしれないが、軸はぶれず、根幹の部分はしっかりと完成に近いものにすることができた。今後はそれに対して枝葉をつけていかれるのだが、どんな選択肢があるのかを具体化して示すところまで支援できたと思う。派遣を受けることより、団体の方が視点を広く持ち自ら動かされたことで、情報を得たり、意見を聞けたり、連携することができる人や団体が徐々に増え、ネットワークが広がりつつあることも素晴らしい成果であると思われる。